

千葉市立柏台小学校 校長 佐藤 典子

体の芯から冷えるような日があるかと思えば、暖かい日差しの日もあり、春の訪れはもうすぐです。子どもたちは、この時期ならではの凧揚げやコマ回し、縄跳びなどの技を友達と競い合いながら磨いています。

ある日、一年生が担任や学習支援の方と一緒に凧を揚げていました。その日は 2 回目の活動だったので、子どもたちの凧はぐんぐんと揚がり、雲一つない青空に色とりどりの凧が静止しているように見えました。また別の場所では、地面に落下した凧の糸を懸命に手繰っていました。手のひら程の大きさの糸巻きに、規則的な動きと同じ強さで糸を巻き取ることは、一年生にとって思いの外難しいことでした。糸がはみ出したり緩んだり…。子どもたちの生活の中では、糸を巻いたり絡まった糸をほどいたりする、ある意味手を煩わせ根気のいる経験は少ないのではないのでしょうか。

私たちは、今、タイムパフォーマンスやコストパフォーマンスなどさまざまな場面で効率化を求めます。しかし、もう少しゆっくりと自分の思いや現状と向き合い、感性を磨いたり体を操ったりすることも大切かもしれません。



新年の席書会



絡まった糸を
学習支援員さんとほどく